



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2016-2017 年度 No.40

事務局(新) 〒939-1652 富山県南砺市福光新町 56

TEL 0763-55-6125 FAX 0763-55-6147

h.tonamirc@gmail.com

2016—2017 年度 会長 山本武夫、幹事 得永忠雄

2016-2017 年度 RI テーマ



(ジョン F. ジャーム会長)

例会記録

第 1858 回例会

平成 29 年 4 月 26 日(水) よいとこ井波

1. 開会点鐘：会長
2. ソング：四つのテスト
3. 卓話ゲスト：いなみ連句の会 会長 杉本聡氏(紹介者：三谷会員)



4. 会長の時間：本日は杉本聡先生のゲスト卓話です。紹介者の三谷先生とは同い年ということですが、2年前に亡くなられた私の恩人の野村一郎先生とも同い年で、以前野村先生のお宅で一緒に飲んで語りました。良く存じあげており、本日の卓話を楽しみにしています。先日、横山豊介先生からいただいた第3回改組日展富山展に、家内と行って来ました。素晴らしい作品が沢山ありました。有難うございました。先日の良い歯の日キャンペーンに対しまして、マーシ園さんからお礼状が、また新年度の人事の案内もあり、中島会員が、今までの統括施設長と、新たに業務執行理事とされました。ご活躍をお祈りいたします。

5. 幹事報告（高瀬副幹事代理）：私も家内と日展富山展を観て参りました。①「南砺の山々を守る植樹祭」4/29(土：祝)11：00～12：30 福光里山体育館、南砺市射撃場付近。ロータリージャンバー着用を！②2017年5月ロータリーレートは、1\$=110円③近隣クラブの例会変更は事務局に確認を



6. 委員会報告：①出席委員会（横山幹委員長）：21名中14名出席（66.67%）。②長田会員：（地区職業奉仕委員会に参加して）「職業奉仕」の説明がされ、RIの考え方と日本のロータリーの考え方にずれがある、これを地区委員会で勉強会を重ねて、理解を広めていきたいとの事でした。



- ③会長エレクト（河合）：4/29は南砺の山々ですが、皆さんから募金が42万程集まりました。例年の経費が90万程かかります。参加者に協賛団体からの品物

をスタッフが袋詰めしていますが、今年は 400 程をマーシ園さんにお願ひしました。4/24 現場の準備に行きました。がけ崩れ防止の「ニセアカシア」が伸びて、整理をしてきました。植樹の場所は平坦な歩きやすい所です。宜しくお願ひします。③山本会長：先日の R 財団 100 周年のビデオ、大変感動しました。貸出しますので、是非ご覧ください。

7. ニコニコBOX(SAA ; 5名)

山本武夫会長：杉本先生、卓話楽しみです。R 財団地区補助金の申請内定あり。これから RI、R 財団へ正式に申請へ。少しづつ暖かくなり、筍も出始めました。

三谷会員：本日は卓話を杉本先生お願ひしました。

河合会員：29 日、宜しくお願ひします。

高瀬会員：山本会長さんここに竹の子が出たとの情報で、我が家の竹藪を探したら、2 本出ていました。杉本先生、本日はようこそ、所用があり早退します。ごめんなさい。

小西会員：今日では出席率が悪いのに、早退します。杉本先生の卓話ですが、申し訳ありません。

ゲスト卓話「井波と連句」

いなみ連句の会 会長 杉本 聡 氏

三谷会員(紹介者)：本日は、同級生の杉本聡さんにお願ひしました。高校の英語の先生でしたが、有能な方で、現在は連句をされておられます。



杉本氏：(資料配布あり:HPに掲載)井波と連句について話す機会を頂き、有難うございます。元々の中味は「井波町史 上・下」からのものです。井波と連句については、平成 5 年第 1 回全国連句いなみ大会が、黒髪庵・瑞泉寺虎の間で開催され、平成 8 年国民文化祭とやま 96 が、富山県で開催される時に、県内各市町村で何か取りあげようとして、ここ井波町では「連句」が取り上げられ、以来、ほぼ 4 年に 1 回全国連句いなみ大会が開催されています。そして、今年の 9 月 9・10 日には「全国連句いなみ大会 17」が『木彫りの里創遊館・瑞泉寺会館』で開催予定です。

す。

そもそも、井波と連句の繋がり、瑞泉寺 11 代住職の浪化上人が、俳諧師松尾芭蕉の弟子の向井去来の口利きで弟子にしてもらったことが始まりです。江戸時代元禄期のころから始まったとされ、宗匠が、五七五の句を発句して、次の人が七七の句(脇句)を繋げ、次の人が、五七五(第三句)を、さらに次に七七を繋げていくのが「連句」で、五七五を長句、七七を短句といい、最後の句(挙句)が 36 で結句するのが、「三十六歌仙」その半分が、「短歌仙」で、50 あれば「五十韻」、100 まで続けると「百韻」といいます。また、発句・脇(句)・第三(句)の 3 句でなるものを「三つ物」といいます。また、連句には、「花の座」「月の座」「恋の座」などや「時局の座」など、所々に、テーマが決められ、因んだ句が読まれます。【余談：「花を持たせる」「挙げ句の果て」などは、連句からきた言葉です。】

元禄期、芭蕉没後、黒髪庵の「翁塚」に寄せて、芭蕉追悼の百韻・五十韻、歌仙、句寄せが多数集まりました。明治 15 年には、浪化上人百五十回忌、芭蕉堂建立があり、追善脇起(わきおこし：過去の人の作品を発句として、脇句からつなげる連句)百韻・五十韻が残されています。明治 25 年には、芭蕉二百回忌追善正式俳諧百韻があり、戦中(昭和 18 年)には、芭蕉翁・浪化上人二百五十回忌脇起俳諧之連歌が作られました。ご存知のように、明治に入り、正岡子規が、「連俳は文学にあらず、発句のみ」が文学とし「俳句」を勧めたことは、承知の通りです。しかし、連句は細々と結社が続き、今日になって、再び日の目を見るようになりました。そうして、平成になって、いなみ連句の会が発足、今年 9 月に「全国連句いなみ大会 17」が開催されます。皆様で、興味があるお方は是非、連句の会にお入りください。



(会報担当) 長谷川・長田(写真)、山本武夫